

第Ⅲ章 合意形成や情報発信に向けた取組み

第三章 合意形成や情報発信に向けた取組み

本章では、最初に、これまでの取組を整理のうえ、今後の合意形成・情報発信のあり方を検討した。

次に、今年度実施した県内向けイベント（「普天間未来予想図」パネル展）の開催概要・報告、また、今年度制作した「全体計画の中間取りまとめ（第2回）」の内容を伝えるPV、跡地の特性を伝える体験空間「バーチャル普天間未来シティ」、「全体計画の中間取りまとめ（第2回）（委員会案）」のパンフレットについて整理した。さらに、今年度実施したホームページの更新内容について整理した。

1. これまでの取組と今後の合意形成・情報発信のあり方検討

本節では、過年度の取組を踏まえた今後の展開、及び今後の情報発信・合意形成のあり方の検討を以下に整理した。

(1) これまでの取組と今後の展開

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
検討 ステージ	行程計画（案） 作成	計画内容の具体化に向けた取組			
ターゲット・ 目的等	県民・市民へ中 間取りまとめの 内容を周知	計画づくり スタート） （戦略検討）	計画づくりに ついて 地権者・市民の 意見聴取、気運 醸成	計画づくりに ついて 地権者・市民の 意見聴取、気運 醸成	計画づくりに ついて 地権者・市民の 意見聴取、気運 醸成
合意形成 意見聴取	地権者の合意形成・意見聴取（地主会、若手の会、懇話会等）*宜野湾市実施				
	市民の合意形成・意見聴取（NBミーティング、座談会、まち歩き等）*宜野湾市実施				
			ワークショップ		絵画コンクール
情報発信	ホームページ（HP）の公開（適宜更新）				
	プロモーションビデオ（PV）放映				
	PRキャラバン				
	県民フォーラム				
プロモーション ツールの制作	HP立上げ		HPリニューアル	HPコンテンツの制作	
			英語パンフ制作	原風景模型	
			パネル制作	パンフ制作	
	地形模型		地層模型	原風景模型	
	PV制作	将来イメージを討議するためのVRを活用したPV制作			
	・「全体計画の中 間取りまとめ」 PV-普天間未 来予想図	・中央エリア ⇒世界に誇れる 環境づくり *地権者、市民等 向け	・北側エリア ⇒歴史文化とコ ミュニティ *地権者、市民等 向け	・南側エリア ⇒シマの基層と 公園都市 *地権者、市民等 向け	

図Ⅲ-1 これまでの取組と今後の展開（1/2）

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度～
計画内容の具体化に向けた取組					
	配置方針の更新	(第2回) (事務局案)	(第2回) (委員会案)	(第2回) 策定	
子どもたちや地権者・県民・市民に体験を通じて計画づくりの周知、意見聴取、気運醸成	県外へ向けて、体験を通じて、計画づくりを広く周知、意見聴取、気運醸成	広く地権者・県民・市民に周知、意見聴取、気運醸成 ※コロナウィルスの影響により、イベントは未実施	これまでのターゲットに加え、若い世代・県外にも広く周知、意見聴取、気運醸成	若い世代・県外にも中間取りまとめ(第2回)の周知、意見聴取、気運醸成 若い世代等、将来の普天間飛行場跡地や沖縄の将来を担う人材の育成	
(地主会、若手の会、懇話会等) *宜野湾市実施					
(NBミーティング、座談会、まち歩き等) *宜野湾市実施					
				若い世代の意識醸成	
ホームページ (HP) の公開 (適宜更新)					
プロモーションビデオ (PV) 放映		※下記未実施 パネル展示 大型モニターを活用した PV 上映 Web フォーラム 情報発信コンテンツ制作	プロモーションビデオ (PV) 放映	PRキャラバン 県民フォーラム	万博イベント 若い世代を対象としたコンペ・フォーラム
体験イベント ・図書館イベント ・大型展示会への出展	体験イベント ・霞が関イベントへの出展		体験イベント ・商業施設への出展	体験イベント	
HPコンテンツの制作					
シアター映像	シアター映像		パンフ制作		
VRによるまちまーい	VRによるまちまーい		バーチャル普天間未来シティ制作		
パネル制作	普天間飛行場と山手線の大きさ比較 航空写真マット制作		Web ブラウザ用コンテンツ制作	タブレット・スマホ活用コンテンツ制作	
			原風景模型説明パネル制作		展示型コンテンツ制作
VRを活用したPV制作			VRを活用したPV制作		
<ul style="list-style-type: none"> 普天間飛行場の現状と歴史 跡地利用による効果 緑の中のまちづくり 暮らし方イメージ *県民、市民等向け (特に小中学生)	<ul style="list-style-type: none"> みどりの中のまちづくりの揺るぎない方向性 ⇒シマの基層を最大限活用 ⇒公民の境なくまち全体に緑を創造 ⇒最先端技術を導入 *県民、市民等向け		<ul style="list-style-type: none"> 中間取りまとめ(第2回)の内容をまとめた PV 制作 ⇒跡地の将来像・揺るぎないまちづくりの方向性、計画づくりの方針、空間構成の方針、今後の取組内容と手順 *県民、市民等向け		

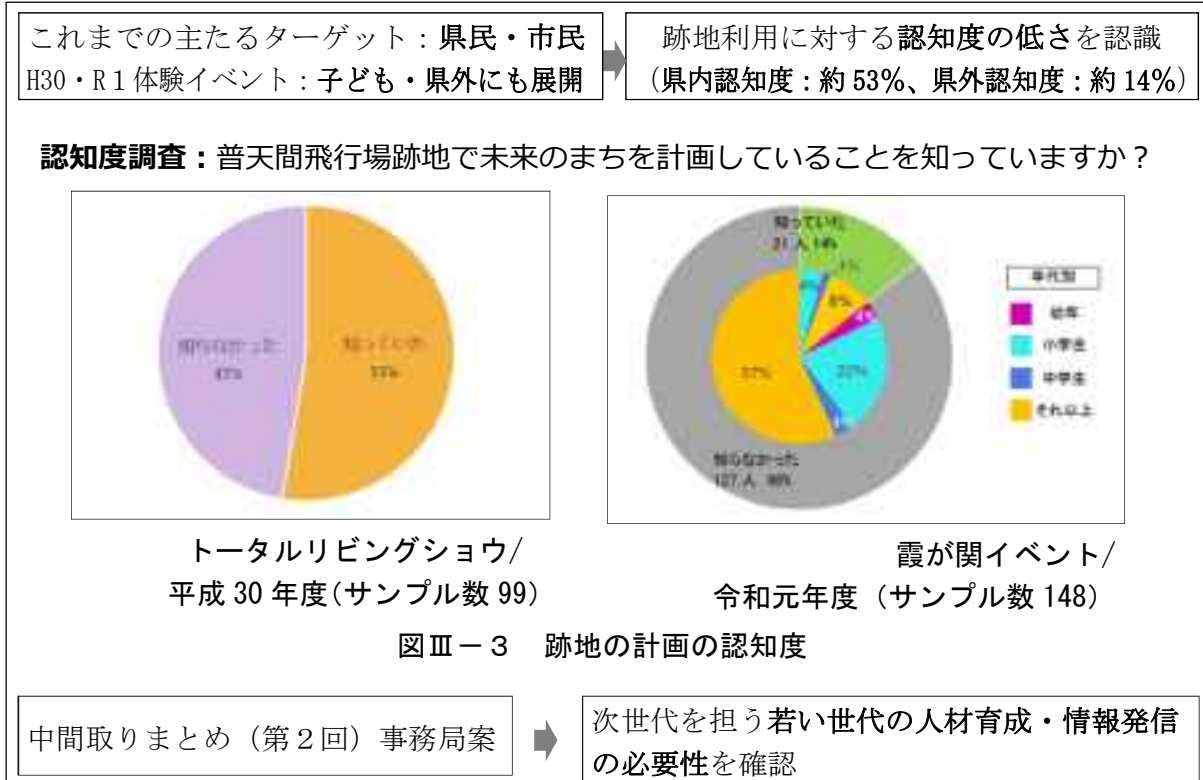
図 III-2 これまでの取組と今後の展開 (2 / 2)

(2) 今後の合意形成・情報発信のあり方検討

これまでの取組の概要、及び情報発信にかかる近年の動向を整理し、今後の合意形成・情報発信の新たな展開に向けて、そのあり方を検討した。

(2) - 1 これまでの取組と社会的動向の整理

(2) - 1 - 1 これまでの取組の整理



(2) - 1 - 2 情報発信にかかる社会的動向

情報源の変化

- ・新聞・テレビ < インターネット (趣味・娯楽など、自ら情報を得に行く場合)
- ・メディア接触時間：スマホ・タブレットが大きく増加し情報を得るメディアが多様化



図Ⅲ-4 情報を得るメディアの変化 (1)

出典：平成 30 年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する
調査報告書概要 (令和元年 9 月、総務省)



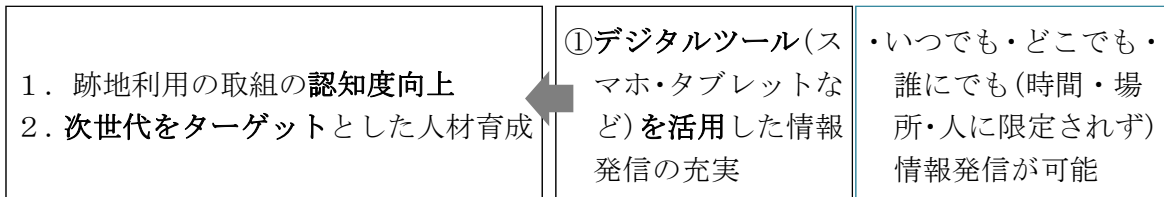
図Ⅲ－５ 情報を得るメディアの変化（２）

出典：メディア定点調査 2020（令和２年、博報堂DYメディアパートナーズ メディア環境研究所）
をもとに作成

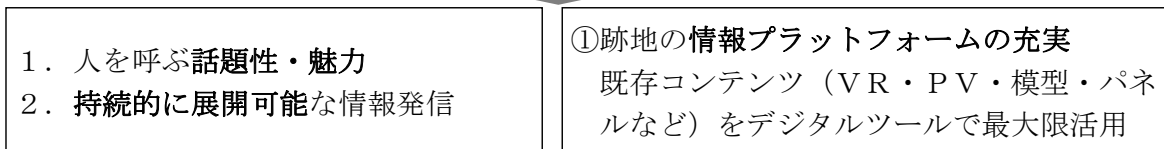
(2) - 2 今後の情報発信・合意形成のあり方検討

(2) - 2 - 1 今後の情報発信・合意形成の方向性

これまでの取組と社会的動向の整理を踏まえ、今後の合意形成・情報発信の方向性を以下に整理した。



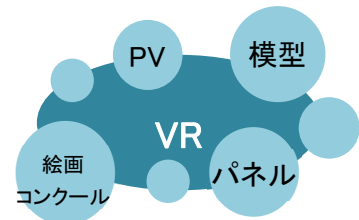
そのために必要なコト



※HPも情報プラットフォームとして機能しているが、アクセスを待っている状態であり積極的発信にはつながっていない

① 新たな情報発信の展開

既存VRを中心に据えた情報プラットフォームの構築
・VR上の跡地でビジュアル的に、体験的に遊び・学ぶバーチャルな集いの場



② 新たな情報発信の展開イメージ

第1段階 情報プラットフォームの立ち上げ・プロジェクトの骨格の構築

- ・インターネット上でアクセス可能なVRを「バーチャル普天間未来シティ」とし、まちを訪れ、各施設に入ること、バーチャル空間で展開される情報の閲覧・まちあるきを体験することができるベースを構築

第2段階 県民・市民・企業等を巻き込んだまちづくり活動の始動

- ・様々な人がバーチャル空間で交流・情報発信を行う。新しいまちをバーチャル上で疑似経験でき、まちの中でイベントや店舗（ECサイト）などを展開し、不特定多数の人が集い、双方向の交流が可能な場の提供

第3段階 バーチャル普天間未来シティの拡充

- ・県民・市民・国内外の企業などの参画を拡充させ、デジタル社会の動向にあわせてバーチャル普天間未来シティの拡充を図る

- ・第2・第3段階への移行には、様々なステップを経て課題を解決することが必要となり時間を要することが想定されるが、第2・第3段階を視野に入れ、
まずは、第1段階のバーチャル普天間未来シティを展開

③ 第1段階における展開フロー（案）

第1段階における各年度の展開フロー（案）を整理した。今年度は、バーチャル普天間未来シティのベースを構築し、来年度以降に、認知度向上・次世代をターゲットとした人材育成に向け、スマホやタブレットのブラウザでの展開、イベント等と連動した展開を想定する。

また、デジタル技術の進展は、日進月歩であるため、必要に応じて社会の変化等に合わせた情報発信手法の検討を行う。

表Ⅲ-1 第1段階における展開フロー（案）

	R3(今)年度	R4(来)年度	R5(再来)年度
実施イメージ	<p>①今後のあり方検討 ⇒これまで制作したコンテンツを活用した新たな展開の検討</p> <p>②3D特性を活かした情報発信コンテンツの制作・再編集 ⇒これまで制作したコンテンツの整理・3Dの特性を活かした見せ方の検討 ⇒バーチャル空間で展開するコンテンツの制作・再編集</p> <p>③展示空間（バーチャル空間）の制作 ⇒情報発信コンテンツの閲覧/アクセスを可能にする展示空間の制作 ⇒2空間の制作</p> <p>④PCブラウザ上での展開 ⇒来年度以降、スマホ・タブレットでアクセスできるように、今年度は準備段階としてPCブラウザ上で展開</p> <p>⑤宣伝用PVの制作 ⇒来年度の公開に向けたCMとしてのPV（15～30秒）を制作</p>	<p>⑥3D特性を活かした情報発信コンテンツの制作・再編集 ⇒3Dの特性を活かした見せ方の検討 ⇒バーチャル空間で展開するコンテンツの制作・再編集</p> <p>⑦展示空間（バーチャル空間）の制作 ⇒情報発信コンテンツの閲覧/アクセスを可能にする展示空間の制作 ⇒2空間の制作</p> <p>⑧スマホ・タブレットのブラウザでの展開 ⇒より多くの人へ情報を発信するために、スマホ・タブレットからアクセス可能な環境の整備</p> <p>⑨イベントなどと連動した展開 ⇒中間取りまとめ（第2回）の公表年として、イベントなどと連動した展開を想定</p>	<p>⑩3D特性を活かした情報発信コンテンツの制作・再編集 ⇒3Dの特性を活かした見せ方の検討 ⇒バーチャル空間で展開するコンテンツの制作・再編集</p> <p>⑪展示空間（バーチャル空間）の制作 ⇒情報発信コンテンツの閲覧/アクセスを可能にする展示空間の制作 ⇒2空間の制作</p> <p>⑫イベントなどと連動した展開 ⇒イベントなどと連動した展開を想定</p> <p>⑬今後の情報発信手法の検討 ⇒アプリなどでの展開検討 ⇒第2段階への移行検討（第2段階移行に向けての課題などの整理） ⇒デジタル技術の進展・社会の変化に合わせた情報発信手法の検討</p>

2. 既存ツールを活用した県内向けイベント

本節では、これまでの過年度成果、合意形成・情報発信ツール等を活用した跡地利用計画に関するパネル展を開催し、普天間飛行場跡地利用についての合意形成・情報発信を行った。

(1) 「普天間未来予想図」パネル展

不特定多数の県民・市民が利用する県内の商業施設において、キャラバン巡回展示を開催することで、普天間飛行場跡地利用に向けての取組を、県民に広く周知し、返還後のまちづくりに関する気運醸成を図ることを目的とする。また、内閣府沖縄総合事務局が主催した「米軍施設返還跡地まちづくりパネル展」のパネルを活用し展示することで、パネル展の内容の充実化を図る。また、来場者の興味・関心に繋げる仕掛けとして、跡地一体の昔の風景を復元した原風景模型を展示することで、これまで跡地利用に関する情報に触れる機会の少なかった県民・市民の認知度向上と、今後の展望に夢を抱いてもらう機会を創出する。

併せて、アンケート調査（アンケート用紙、Web アンケート）を実施することにより、広く県民の意見を聴取する。

(1) - 1 開催概要

開催日時及び場所は以下のとおりである。

表Ⅲ-2 開催日時・場所

日時	場所	備考
12月4日(土)～12月5日(日) 【10:00～20:00】	サンエー那覇メインプレイス (3階エントランス)	
12月11日(土)～12月12日(日) 【10:00～20:00】	イオンモール沖縄ライカム (2階グランドスクエア東広場)	原風景模型を 展示
12月18日(土)～12月19日(日) 【10:00～20:00】	サンエー宜野湾コンベンションシ ティ (3階エントランス)	

(1) - 2 展示内容

普天間飛行場跡地利用計画に関するパネルを展示するとともに、跡地利用について身近に感じてもらえるよう、内閣府沖縄総合事務局主催「米軍施設返還跡地まちづくりパネル展」のパネルを活用し、これまでの跡地利用に伴う事例を紹介することで、今後返還が予定されている、跡地利用に向けて意識醸成に繋がる展示内容とした。

(1) -2- 1 展示のストーリー

米軍施設返還跡地利用の概要

これまでに返還された跡地の利用状況を紹介するとともに、今後返還が予定されている、県内の返還跡地・返還合意施設を知ってもらう。

返還跡地に誕生したまちの紹介

跡地の概要、沿革、今昔の写真を用いて跡地利用の事例を紹介し、これまでの移り変わりを伝える。

基地跡地の未来に関する懇親会について

今後返還が予定されている普天間飛行場、牧港補給地区等の在日米軍施設・区域の跡地利用、その核となる施設・機能の検討内容について知ってもらう。

普天間飛行場跡地利用計画の概要

今後返還が予定されている普天間飛行場について、過年度作成したパネル「普天間飛行場跡地利用計画（中間取りまとめ）」を活用し、具体的な計画内容を理解してもらう。



普天間シアター映像の上映

普天間飛行場の未来のまちのイメージを上映（7分48秒）

普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力（シマの基層）

普天間飛行場及び周辺における自然環境自然・歴史文化資源を展示し、普天間飛行場跡地に潜在する資源の魅力を知ってもらう。



原風景模型の展示



跡地利用による経済効果と緑の中のまちづくり

普天間飛行場がまちになることでもたらす経済効果や、緑が人や環境にもたらす効果を示すことで、跡地利用の重要性と未来の普天間飛行場跡地に夢を抱いてもらう。



【新しい沖縄のライフスタイル】

・新しい沖縄のライフスタイルを紹介することで返還後のライフスタイルを具体的にイメージしてもらう。



エコバック・風船の配布

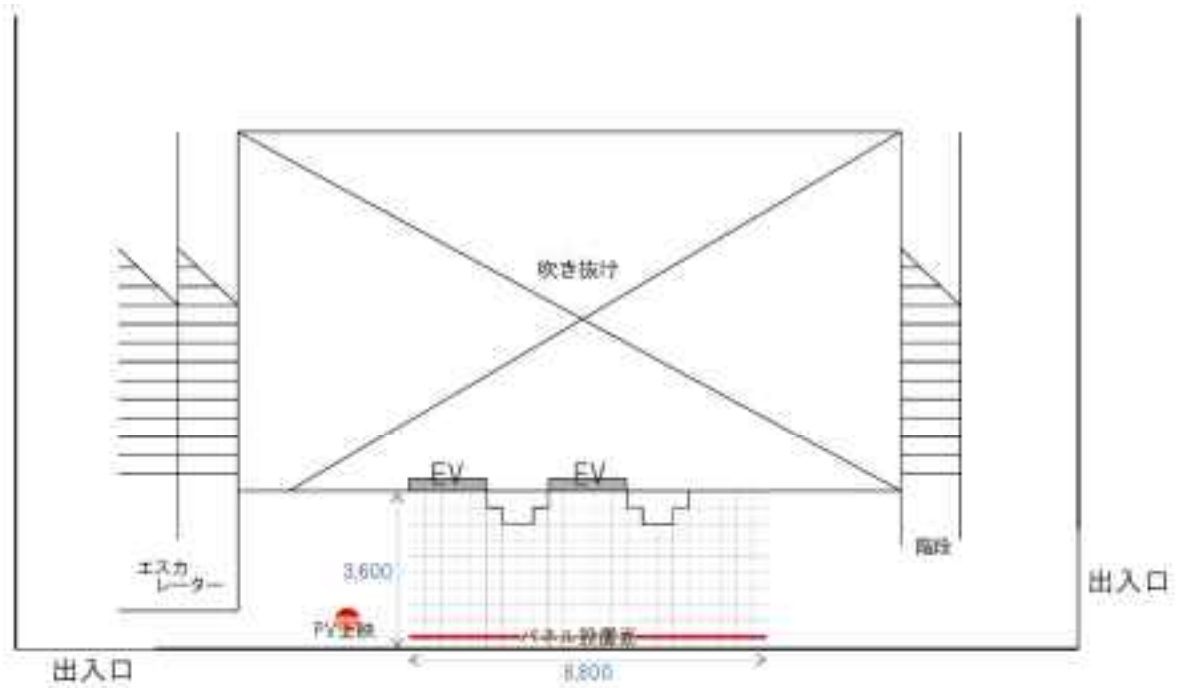
・アンケート回答者にノベルティグッズ（エコバック）を配布



アンケートによる意見聴取

(1) -2-2 ブースレイアウト

① サンエー那覇メインプレイス（3階エントランス）

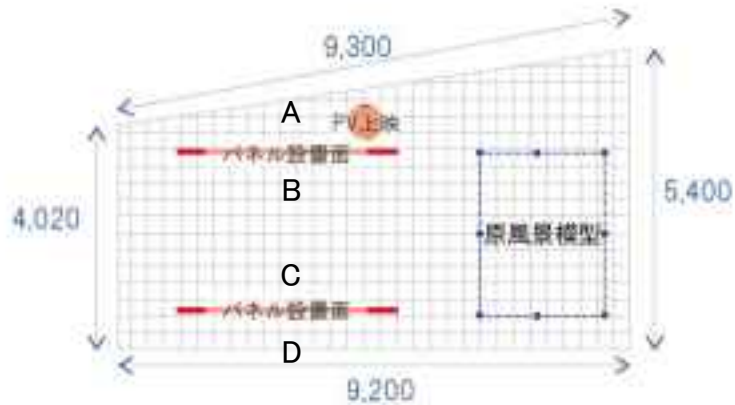


図Ⅲ-6 ブースレイアウト（平面図）



図Ⅲ-7 ブースレイアウト（立面図）

②イオンモール沖縄ライカム（2階グランドスクエア東広場）

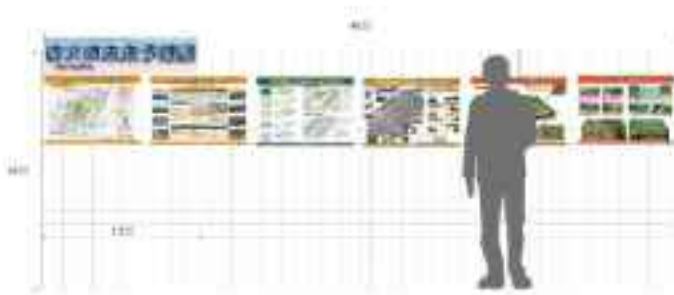


図Ⅲ-8 ブースレイアウト（平面図）

A



B



C

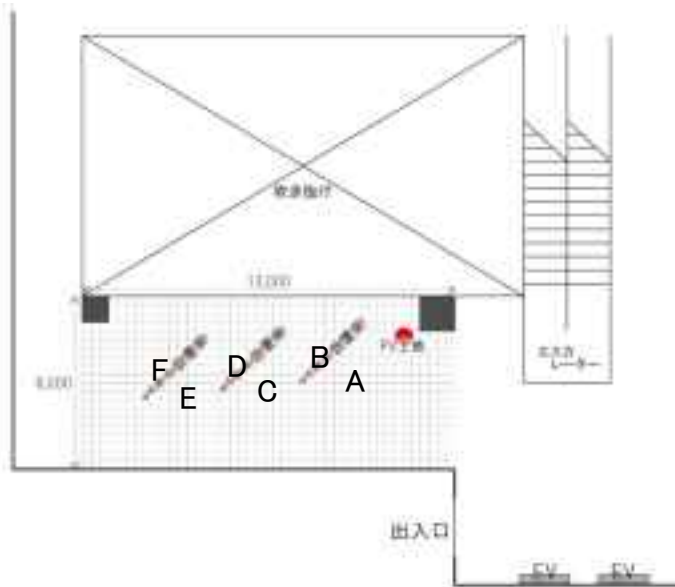


D

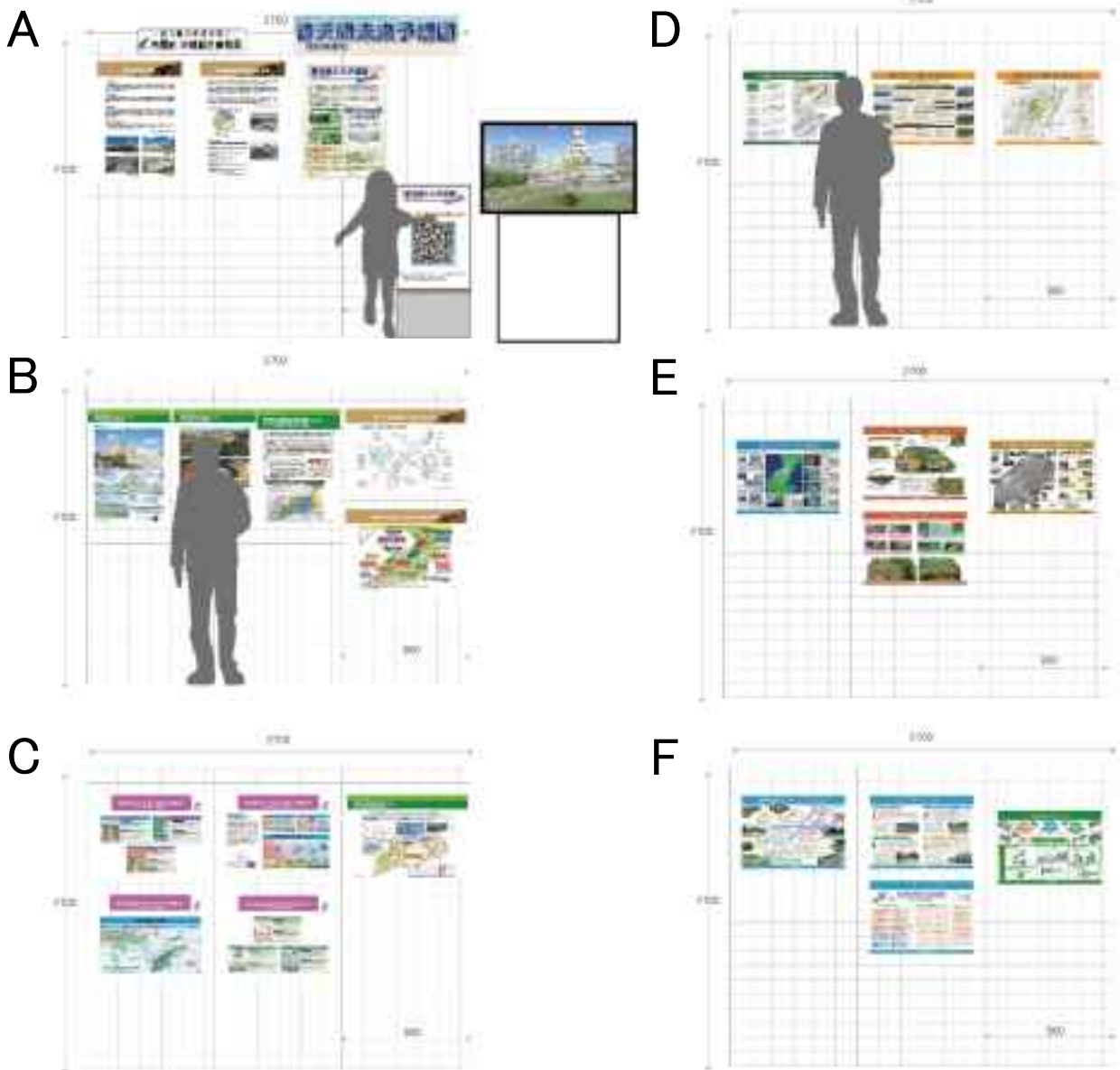


図Ⅲ-9 ブースレイアウト（立面図）

③サンエー宜野湾コンベンションシティ（3階エントランス）



図Ⅲ-10 ブースレイアウト（平面図）



図Ⅲ-11 ブースレイアウト（立面図）

(1) -2-3 周知方法 (県・市ホームページによる周知)

入場無料
申込不要

普天間未来予想図

飛行場跡地

パネル展

沖縄県と宜野湾市は、返還が予定されている普天間飛行場の跡地利用計画策定に向けた検討を共同で行っています。様々な人が集い、暮らし、働き、楽しむ、そんな未来のまちのイメージを紹介し、広く県民のみなさまが跡地におけるまちづくりについて考えていただくきっかけになればと思います。

展示内容としては、跡地におけるまちづくりを「普天間未来予想図」と題して、「緑の中のまちづくり」、「新しい沖縄のライフスタイル」をテーマにプロモーションビデオや跡地利用に向けた検討内容について紹介しております。

みんなで未来のまちをイメージしてみませんか。

「緑の中のまちづくり」



緑が
まちの魅力を高め、
暮らしを
豊かにする!

出張!! 米軍施設返還跡地 まちづくりパネル展

今回のパネル展では、昨年度に内閣府 沖縄総合事務局が開催した「米軍施設返還跡地 まちづくりパネル展」の一部を抜粋して展示します。

米軍施設返還跡地に誕生したまち、基地跡地の未来について紹介します。



沖縄県 宜野湾市 まち未来課
内閣府 沖縄総合事務局

「新しい沖縄のライフスタイル」

普天間飛行場跡地の
未来のまちで
実現したい
ライフスタイルは?



開催日時・場所 各回とも **10:00 ~ 20:00**

第1回	令和3年 12月 4 日(土)・ 5 日(日)	サンエー那覇メインプレイス (3階エントランス)
第2回	令和3年 12月 11 日(土)・ 12 日(日)	イオンモール沖縄ライカム (2階グランドスクエア東広場)
第3回	令和3年 12月 18 日(土)・ 19 日(日)	サンエー宜野湾コンベンションシティ (3階エントランス)

【お問い合わせ】

沖縄県 県土・跡地利用対策課 連絡先：(電話) 098-868-2040 担当：宮平、神里	宜野湾市 まち未来課 連絡先：(電話) 098-893-4401 担当：高島、東江
--	--

図Ⅲ-12 告知チラシ

(2) 開催報告

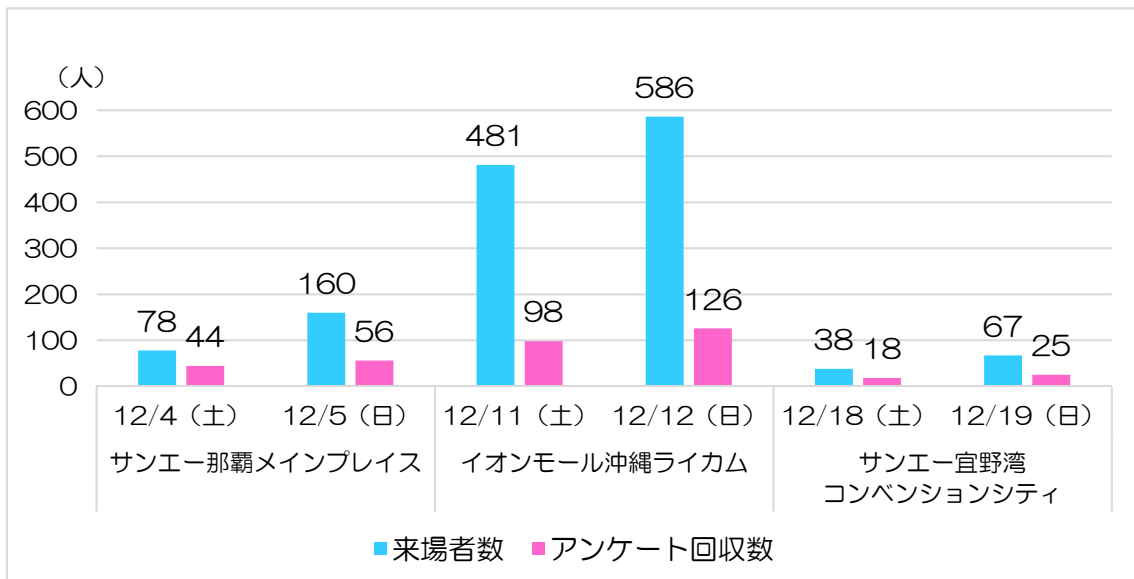
(2) - 1 来場者数及び実施の様子

6日間の展示会期間中の合計来場者数は1,410人となっており、アンケート回収数は367票であった。

イオンモール沖縄ライカムでは、多くの人流がある場所での展示ができたことに加えて、通行人の目を引く「原風景模型」を設置したことが、閲覧者数の増加につながったと考えられる。

表Ⅲ-3 開催場所・日別来場者数及びアンケート回収状況

開催場所	①サンエー那覇 メインプレイス		②イオンモール 沖縄ライカム		③サンエー宜野湾 コンベンションシティ		合計
	12/4(土)	12/5(日)	12/11(土)	12/12(日)	12/18(土)	12/19(日)	
来場者数	78	160	481	586	38	67	1,410
アンケート 回収数	44	56	98	126	18	25	367
回収率	56.4%	35%	20.4%	21.5%	47.4%	37.3%	26.0%



①第1回

【日時】12月4日(土)～12月5日(日) 10:00～20:00

【場所】サンエー那覇メインプレイス_3階エントランス



②第2回

【日時】12月11日(土)～12月12日(日) 10:00～20:00

【場所】イオンモール沖縄ライカム_2階グランドスクエア東広場



③第3回

【日時】12月18日(土)～12月19日(日) 10:00～20:00

【場所】サンエー宜野湾コンベンションシティ_3階エントランス



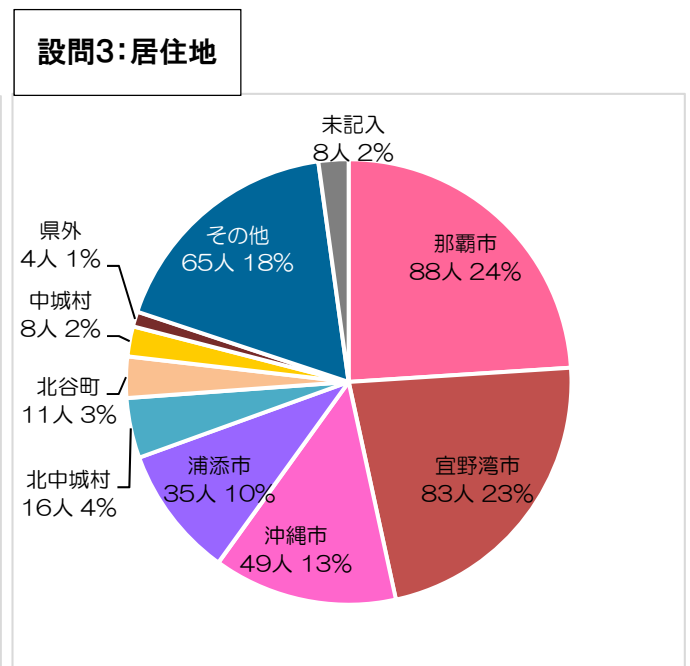
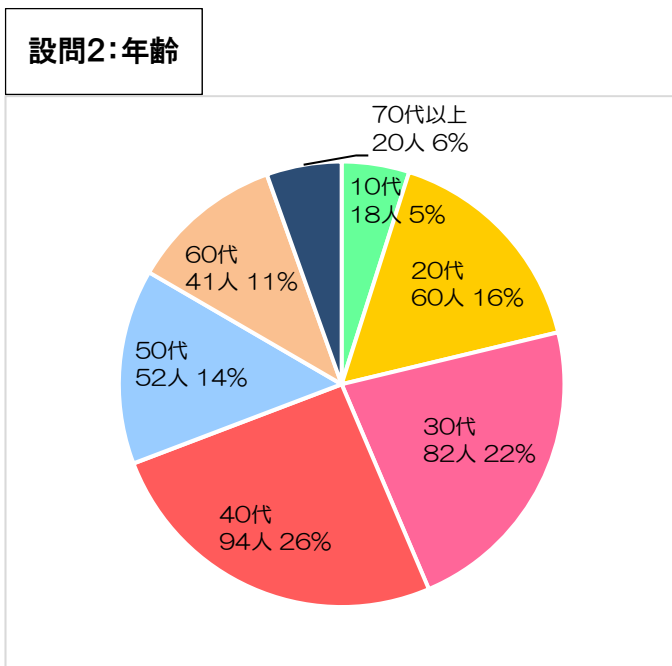
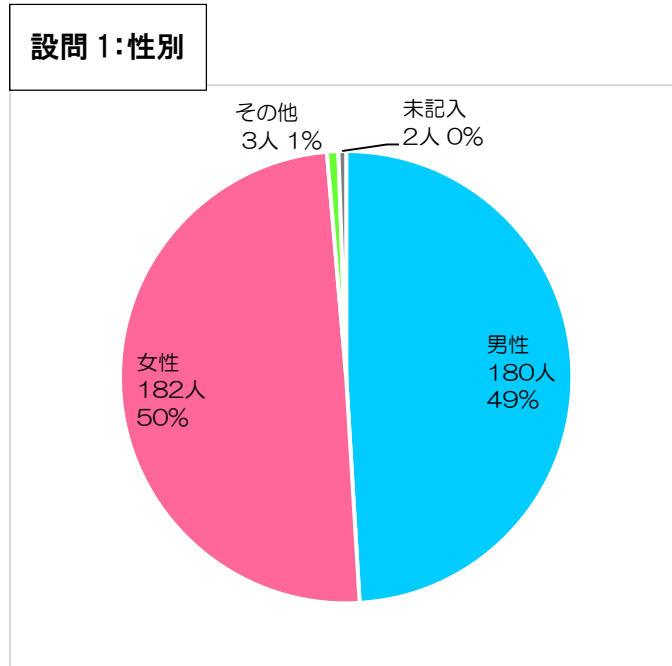
(2) -2 アンケート結果

属性について

設問1:性別 設問2:年齢 設問3:居住地

年齢については、40代が26%と最も多く、次いで30代22%、20代16%の順となっており、大型ショッピングセンターでの開催ということもあり、比較的若い世代への意見聴取ができたと考えられる。

また、巡回（那覇市、北中城村、宜野湾市）でのパネル展としたことで、地元の方々をはじめ、広範囲に居住している県民へと情報発信ができたと思う。



普天間飛行場に関する認知度について

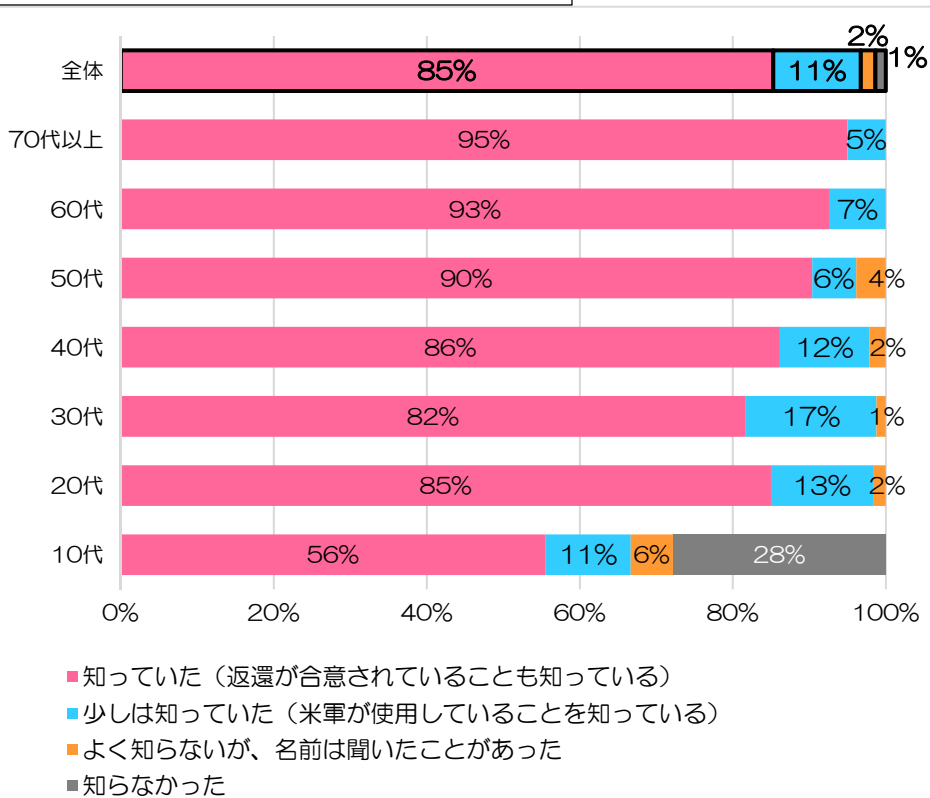
設問 4：普天間飛行場を知っていましたか？

設問 5：跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？

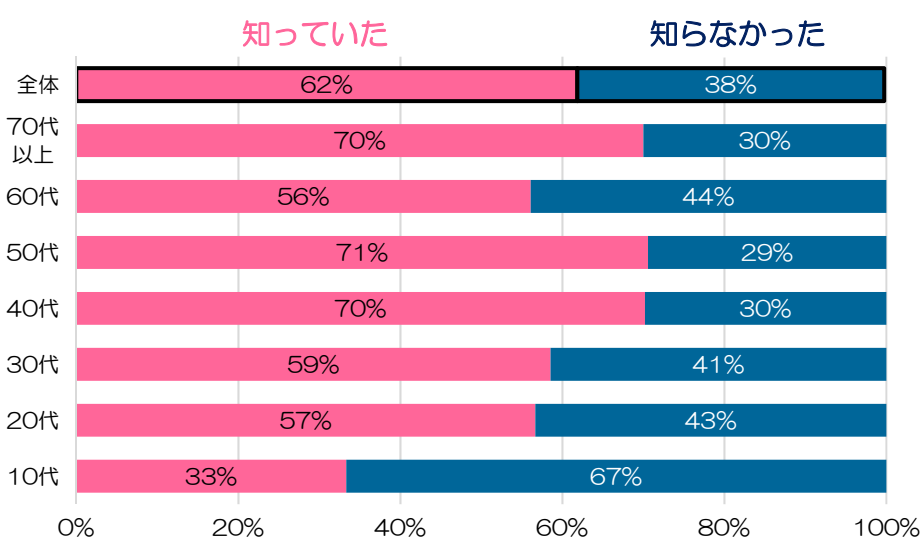
普天間飛行場の「返還が合意されていることを知っている」人が最も多く 85%となっている一方、沖縄県と宜野湾市が共同で跡地利用計画策定に向けた検討を行っていることを「知っていた」人は 62%にとどまっていた。

今後も引き続き、県民に広く周知を行っていく必要があると考えられる。

設問 4：普天間飛行場を知っていましたか？



設問5:跡地利用計画策定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？

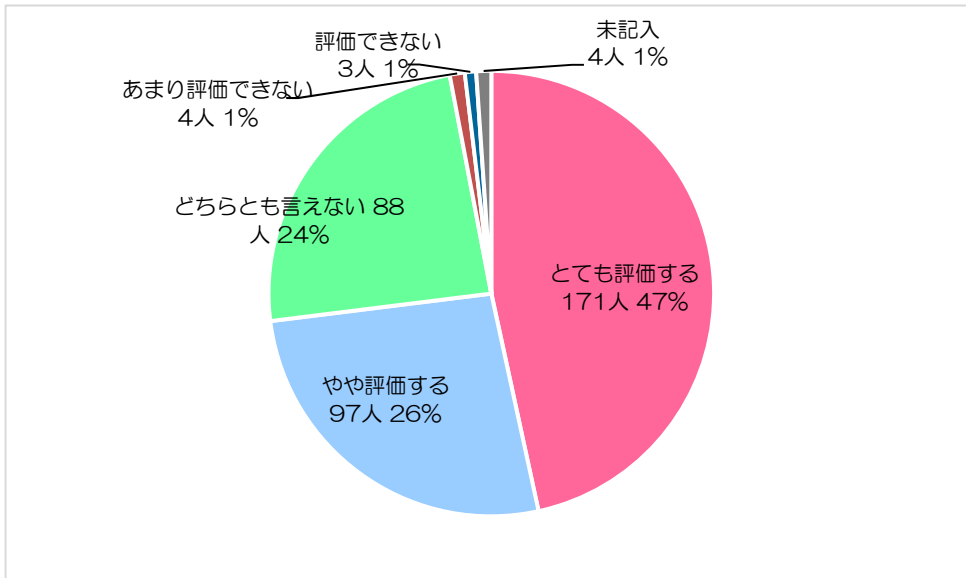


跡地利用に関する取組への評価について

設問 6：跡地利用に関する取組についてどう思いますか？

跡地利用に関する取組への評価としては、「とても評価する」が47%と最も多かった。「評価する（とても評価する・やや評価する）」と回答した人は73%、「評価しない（あまり評価できない・評価できない）」と回答した人は2%であった。

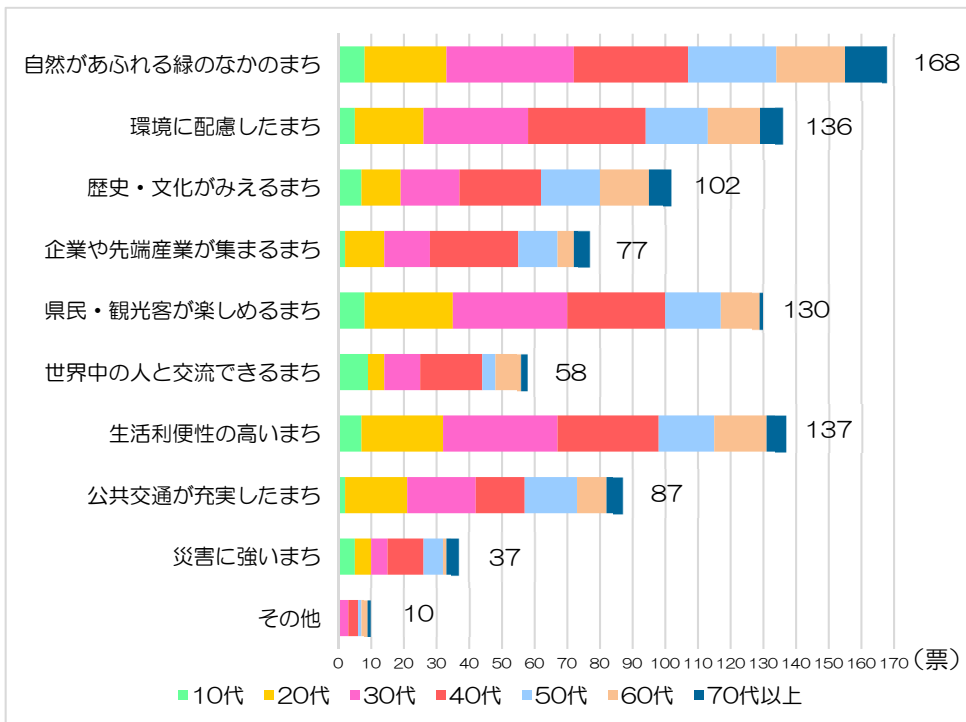
自由意見の中には「緑豊かで住み続けられる都市にしてほしい」、「ホームページの存在は知らなかった。広報活動を頑張るべき」という意見も挙がっていた。



期待する跡地のまち像について

設問 7：跡地がどんなまちになったらよいと思いますか？（3つまで選択）

「自然があふれる緑のなかのまち」が168票（18%）と最も多く、次いで「生活利便性の高いまち」137票（15%）、「環境に配慮したまち」136票（14%）となっており、自然環境を大事にしたまちづくりを求める回答者が多かった。

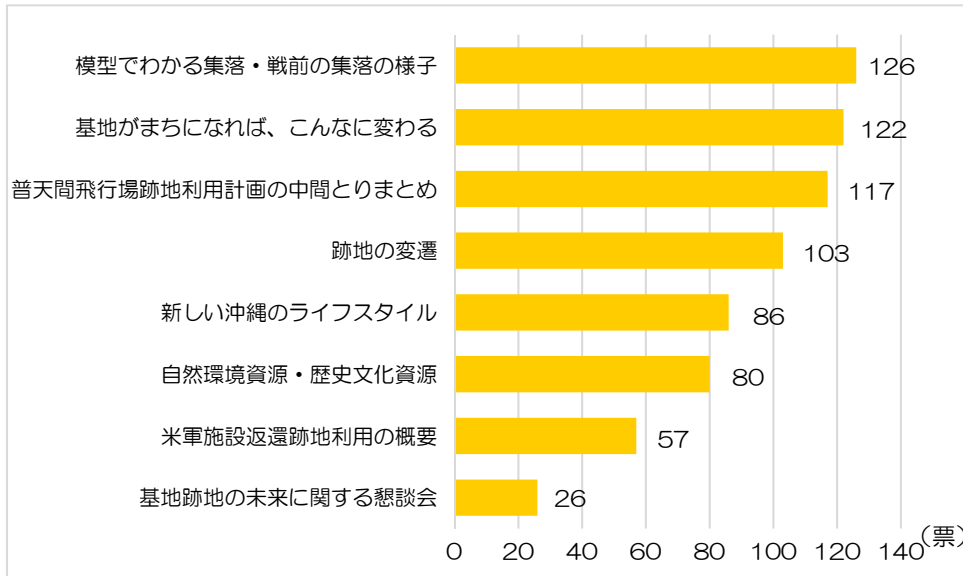


期待する跡地のまち像について

設問 8 : どのパネルに関心がありましたか？ (3 つまで選択)

関心のあったパネルについては、「模型で分かる戦前の集落の様子」が 126 票 (18%) と最も多く、次いで「基地がまちになれば、こんなに変わる」122 票 (17%)、「普天間飛行場跡地利用計画 (中間取りまとめ)」117 票 (16%) となっている。

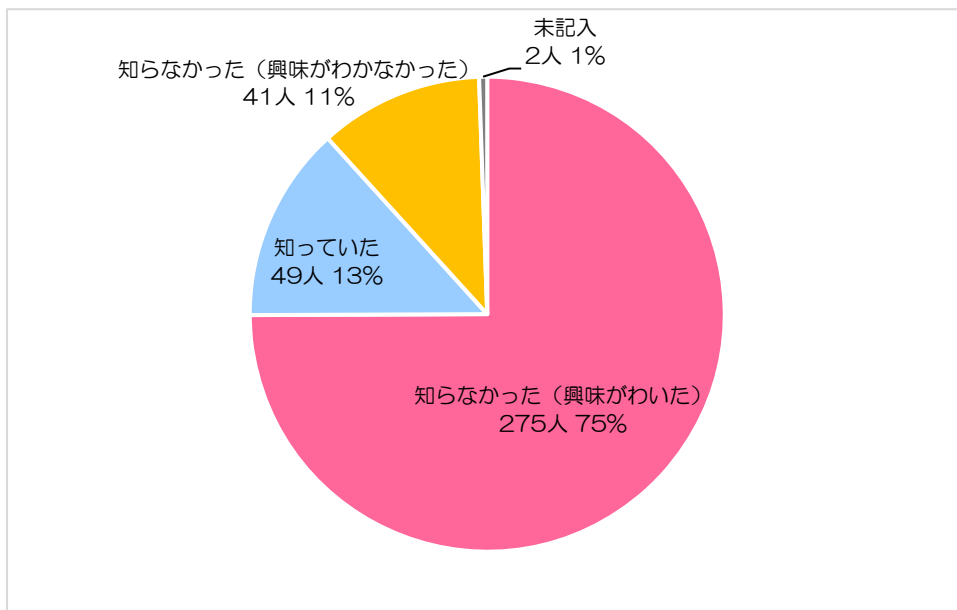
原風景模型に関するパネルや配置方針図を掲載したパネル、跡地利用の変遷を写真で紹介しているパネル (沖縄総合事務局より借用) など、ビジュアル的で分かりやすいパネルへの関心が高いと考えられる。



HP「普天間未来予想図」の認知度について

設問 9 : 跡地利用に関する情報を発信している HP があることを知っていましたか？

ホームページの存在を「知っていた人」は 13% と低い割合であった。知らなかったと回答している人のうち、「興味がわいた」と回答している人が 75% であることから、今後、HP の存在を広く発信することで、HP の閲覧者増が期待できると考える。

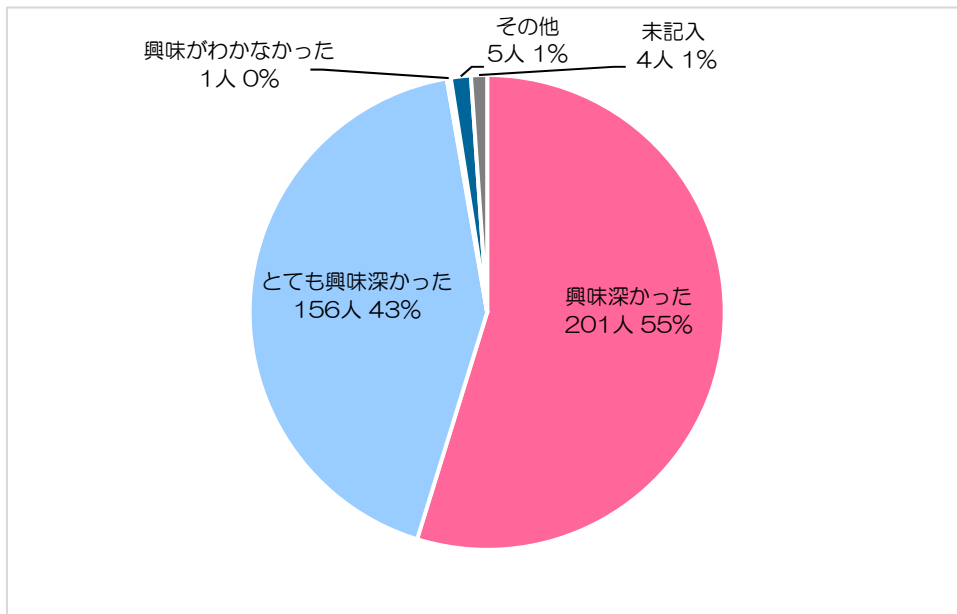


パネル展の感想について

設問 10：今回のパネル展の感想をお聞かせください。

パネル展の感想については、「興味深かった」が55%と最も多かった。興味を持った人（とても興味深かった・興味深かった）が全体の98%を占めていた。

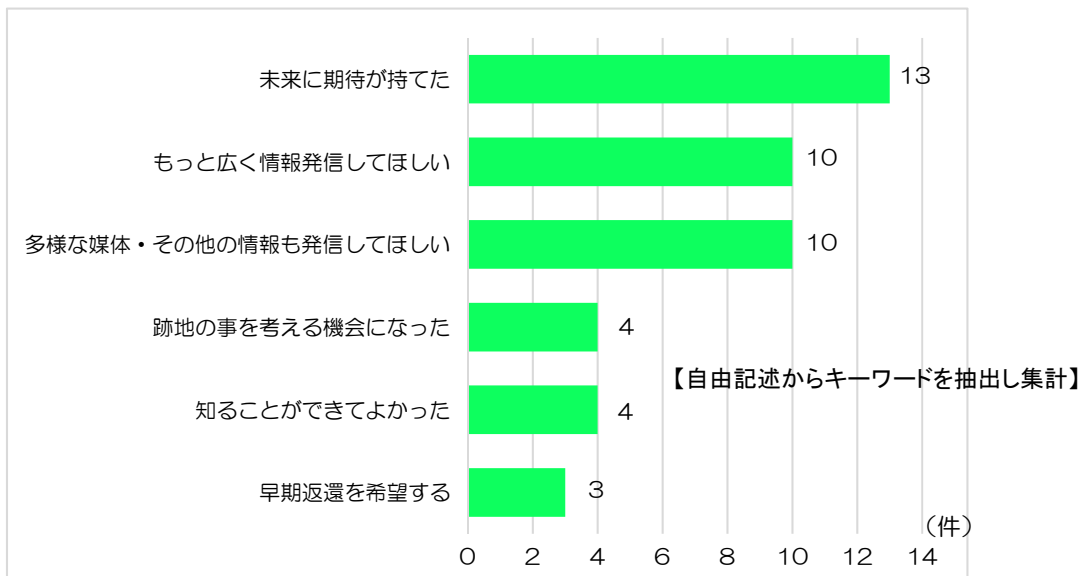
一方、その他の意見として「パネルの配置を（面白味があるように）工夫した方がよい」や「もう少し分かりやすい方がよい」等の意見が挙がっていた。



その他、ご意見・ご感想

本パネル展や普天間飛行場跡地利用計画に関するご意見・ご感想等

「未来に期待が持てた」、「もっと広く情報発信してほしい」、「多様な媒体・その他の情報も発信してほしい」などの意見が多かった。普天間飛行場や跡地利用についての興味・関心を引くきっかけになったが、情報発信のあり方を工夫してほしいとの声も多かった。



アンケート用紙

あなたの声が沖縄の未来をつくります。ご意見をください。

普天間 飛行場跡地 未来予想図

あなたについて教えてください。

Q1. 性別

- ① 男性 ② 女性 ③ その他

Q2. 年齢

- ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代
- ⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代以上

Q3. 居住地

- ① 那覇市 ② 浦添市 ③ 宜野湾市 ④ 北谷町 ⑤ 中城村
- ⑥ 北中城村 ⑦ 沖縄市 ⑧ 県外 ⑨ その他 ()

普天間飛行場跡地についてのご意見をお聞かせください。

Q4. 普天間飛行場を知っていましたか？

- ① 知っていた (返選が合票されていることも知っている)
- ② 少しは知っていた (米軍が使用していることを知っている)
- ③ よく知らないが、名前は聞いたことがあった
- ④ 知らなかった

Q5. 返選が予定されている普天間飛行場の跡地利用計画決定に向けた検討が行われていることを知っていましたか？

- ① 知っていた ② 知らなかった

Q6. 跡地利用に関する取組についてどう思いますか？

- ① とても評価する ② やや評価する ③ どちらとも言えない
- ④ あまり評価できない ⑤ 評価できない

Q7. 普天間飛行場跡地がどんなまちなちになったらよいと思いますか？
[3つまで選択]

- ① 自然があふれる緑のなかのまち ② 環境に配慮したまち
- ③ 歴史・文化がみえるまち ④ 企業や先端産業が集まるまち
- ⑤ 県民・観光客が楽しめるまち ⑥ 世界中の人と交流できるまち
- ⑦ 生活利便性の高いまち ⑧ 公共交通が充実したまち
- ⑨ 災害に強いまち ⑩ その他 ()

Q8. どのパネルに関心がありましたか？ [3つまで選択]

- ① 米軍施設返選跡地利用の概要 (パネル1～3)
- ② 跡地の返選 (パネル4～7)
- ③ 基地跡地の未来に関する懇談会 (パネル8～9)
- ④ 普天間飛行場跡地利用計画の中間とりまとめ (パネル10～11)
- ⑤ 自然環境資源・歴史文化資源 (パネル12～13)
- ⑥ 模型でわかる集落・戦前の集落の様子 (パネル14)
- ⑦ 基地がまちなちになれば、こんなに変わる (パネル15～16)
- ⑧ 新しい沖縄のライフスタイル (パネル17～18)

Q9. 普天間飛行場の跡地利用計画に関する情報を発信しているHP「普天間未来予想図」があることを知っていましたか？

- ① 知っていた ② 知らなかった (興味があった)
- ③ 知らなかった (興味がおかなかった)

Q10. 今回のパネル展の感想をお聞かせください。

- ① とても興味深かった ② 興味深かった
- ③ 興味がわかかった ④ その他 ()

■ 他にもご意見や感想等ありましたら裏面にご記入をお願いします。

◎ご協力ありがとうございました。ご協力頂いた方には、お返しのスタッフまでご返りのシートをお贈りください。

図Ⅲ-13 アンケート用紙

(3) まとめと今後の課題

(3) - 1 来場者の反応

- ・ 沖縄県と宜野湾市が普天間飛行場跡地利用に向けた計画づくりに取り組んでいることに対して、多くの来場者が関心を示した。
- ・ 不特定多数の県民・市民が利用する商業施設でパネル展を開催したことから、多くの方から意見聴取ができた。子ども連れの来場者も多く、普天間未来予想図の文言をプリントした風船に興味・関心を示す子ども達に配布、想定よりも子ども連れの来場者が多かった為、追加で風船を準備するほどであった。
- ・ 返還時期に関する質問や、原風景模型を展示した商業施設では、当時の集落の様子や生活様式に関する質問をする来場者が多くみられた。

(3) - 2 意見聴取について

- ・ アンケートは紙媒体とQRコード読取り（Webアンケート）を併用して行った。パネルと同様にアンケート用QRコードを掲載していたものの、自発的にQRコードを読み取りアンケートに回答する来場者は少なく、アクセスの手間がない紙媒体でのアンケートを望む来場者が多かった。また、タブレットを使用したスタッフによる聞き取り形式での意見聴取も行ったが、対応できる来場者数に限りがあり、多くの意見を聴取するといった点では効率が低かったと考えられる。
- ・ 以上のことから、アンケート調査においては、来場者が気軽に応じることのできる調査方法であり、回答が容易な設問内容、設問数の設定が重要であると考えられる。
- ・ 商業施設にて開催したことから来場者数は多く、特に原風景模型を展示した商業施設においては模型の前で足を止める来場者が多かったこともあり、多くの県民・市民から意見を聴取することができた。

(3) - 3 内容について

- ・ 普天間飛行場の未来のまちのイメージPVを見ている方からは、イメージPVのように緑豊かなまちが実現することを望む声が多かった。アンケートにおいても「自然があふれる緑の中のまち」や「環境に配慮したまち」等、自然環境を大事にしたまちづくりを求める意見が多くみられた。
- ・ 原風景模型を展示した商業施設においては、来場者の目を引くアイテムとなり、高い集客に繋がったと考えられる。また、内閣府沖縄総合事務局主催「米軍施設返還跡地まちづくりパネル展」のパネルを活用し、これまでの跡地利用に伴う事例や跡地の変遷を写真で紹介したことも、来場者の興味・関心に繋がったと考えられる。

(3) - 4 今後の課題

これまでの情報発信イベントでは、他のイベントと連携した開催や普天間飛行場跡地利用計画に関心のある人々がターゲットとなっていたが、今回、不特定多数の県民・市民が利用する県内の商業施設でパネル展を開催することで、広く県民・市民に対して、普天間飛行場跡地利用計画に関する情報発信が可能となった。

本イベントでは、情報発信のあり方を工夫する必要があるとの意見を多く頂いた。特に「パネルの内容は文字を減らし写真を多用した方が良い」、「情報発信ツールの活用（SNS等）」との意見が多く、ビジュアル的な情報発信を行うとともに、今後の跡地利用を担う若い世代に対して有効な情報発信のあり方を検討する必要がある。

(4) 展示物

(4) - 1 普天間未来予想図パネル (実寸サイズ: B2版)

① パネル「普天間飛行場跡地利用計画の中間取りまとめ」



② パネル「普天間飛行場跡地利用計画の中間取りまとめ」



③パネル「普天間飛行場及び周辺における自然環境資源」

普天間飛行場及び周辺における自然環境資源

普天間飛行場周辺の歴史の探定の考え方

緑の配帯の概要

歴史
 1. 普天間飛行場の歴史
 2. 普天間飛行場の現状
 3. 普天間飛行場の将来

緑
 普天間飛行場の緑の配帯は、飛行場の機能と周辺地域の緑の配帯を調和させるための重要な役割を果たしている。

環境景観（灌漑）
 普天間飛行場の灌漑は、飛行場の機能と周辺地域の環境景観を調和させるための重要な役割を果たしている。

水
 普天間飛行場の水資源は、飛行場の機能と周辺地域の水資源を調和させるための重要な役割を果たしている。

自然環境資源の分布

景観・地形・河川・湧水の現状把握

このパネルは、「普天間飛行場周辺」の自然環境資源に関する情報を提供しています。詳細は、<http://www.pref.okinawa.jp/futenma-miaki/>をご覧ください。

④パネル「普天間飛行場及び周辺における歴史文化資源」

普天間飛行場及び周辺における歴史文化資源

歴史文化資源の概要

歴史文化資源の分布

このパネルは、「普天間飛行場周辺」の歴史文化資源に関する情報を提供しています。詳細は、<http://www.pref.okinawa.jp/futenma-miaki/>をご覧ください。

⑤パネル「模型でわかる地形と緑を活かした集落のようす」

模型でわかる地形と緑を活かした集落のようす

風から集落や畑を守っていた緑地

●家と家々の緑地やついでついでに木が植えられたところは、農作を土壌から守るためと考えられています。

●緑地は北風から南へ、南風から北へ、東風から西へ、西風から東へ、それぞれに風を止めていました。

家の向きと屏敷林

●屏敷の壁は、そのほとんどが南から入るついでついでに、北側には屏敷林があり、北風を遮り、南風をよそわたり、家は南を向いて建てられました。屏敷林の他にも、おがきの屏敷壁や、土間に屏敷林を植えていた家も多くありました。

加松街道

●加松街道は、往來路へお参りに行く道の標的づくりだけでなく、北風を和らげる効果も上げて、道に緑地が植えられたと考えられています。

旧 宜野湾集落

●旧 宜野湾集落は、北風から南へ、南風から北へ、東風から西へ、西風から東へ、それぞれに風を止めていました。

旧 神山集落

●旧 神山集落は、北風から南へ、南風から北へ、東風から西へ、西風から東へ、それぞれに風を止めていました。

くわしくは、「暮らしの文化を伝える」ホームページをご覧ください。 http://www.gpf.or.jp/www/gpf/03/03_05.html

⑥パネル「模型でわかる戦前の集落の様子」

模型でわかる戦前の集落の様子

旧 宜野湾集落

●旧 宜野湾集落は、北風から南へ、南風から北へ、東風から西へ、西風から東へ、それぞれに風を止めていました。

旧 神山集落

●旧 神山集落は、北風から南へ、南風から北へ、東風から西へ、西風から東へ、それぞれに風を止めていました。

くわしくは、「暮らしの文化を伝える」ホームページをご覧ください。 http://www.gpf.or.jp/www/gpf/03/03_05.html

⑦パネル「基地がまちになれば、こんなに変わる！」

⑧パネル5「未来のまちのキーワード」

⑨パネル「新しい沖縄のライフスタイル」

新しい沖縄のライフスタイル

普天間飛行場跡地に新しい街ができた時、
どのようなライフスタイルが実現できるのか
イメージしてみました。

どんな人が住み、働くの？

子どもの誕生を機に県内から移してきた家族	先住から引き継ぐ土地に買ってきた林業者
高校進学のため、単身で移してきた離島出身の学生	大学・専門学校を卒業し、跡地内で働く県内の若者
移居の安心を求め、県内から移してきた主婦	定年退職を前に県外から移してきた移住者
沖縄の環境を求め、県外から移ってきた移住者	県外から一時的に転勤してきた会社員
休養施設で働く外国人家族	趣味を楽しむため、セカンドハウスを建てた富裕層

住む人はどんな価値観をもっているの？

自分の居場所	健康志向
「癒し」を求める	老後の安心
身近な暮らしの充実	多様な働き方
沖縄への愛着	情緒的価値意識的
家族の幸せ	情報価値の向上
沖縄文化の誇り	高い防災意識

「住む人はどんな価値観をもっているの？」

- 健康志向の若者が多く、健康に気を遣う人が増える
- 高所得層が移住するなかでも、高齢や障害など事情もあって移住する層の割合が増える
- 県外や海外、海外に転居し移住する層の割合が増える
- 県外からの移住者は多岐にわたる時代を代表する、多岐にわたる価値観を持った層に注目が集まる
- ネット等による情報価値の向上により、情報価値の向上している
- 個人、法人ともに防災意識が高まることは想定されている

（おしん） | 普天間飛行場跡地「ターミナル」のイメージ | 国土交通省 | <http://www.gnt.go.jp/press/p11000017>

⑩パネル「新しい沖縄のライフスタイル」

新しい沖縄のライフスタイル

地縁を重んじる宮城さん

県外から引き継ぐ地縁の新しい街に家を建てた。この街は、自分たちの暮らしに合った街になっていく。そして、暮らしの隅々を探検した際には、地縁の価値が再認識された。そして、暮らしの隅々を探検した際には、地縁の価値が再認識された。そして、暮らしの隅々を探検した際には、地縁の価値が再認識された。

暮らしを支える都市機能

- 伝統的な街区構造を活かした住居地
- エコ都市を構築した街
- 地縁によるコミュニティのネットワーク

沖縄文化に関心のある国吉さん夫婦

長年勤めた仕事を定年退職し、県外から移住地が近くにあっていいことと、沖縄センターで月に2回、妻と一緒に地縁を再発見している。家の近くにある地縁を再発見した。公園で散歩して帰ることを日課にしている。また公園で散歩するときは、古くからこの街に誇りがあふれることと、沖縄、地縁の歴史を再発見するつもりでいる。

暮らしを支える都市機能

- 高齢者が安心できる医療・福祉環境
- コミュニティを支える交流施設
- 地縁の歴史を再発見する教育施設

沖縄の環境を求める安室さん

環境な生活やゆとりある生活の中で暮らすことを、地縁の沖縄にリターンした。仕事は、ネット環境が充実している。地縁は、暮らしの隅々を探検した際には、地縁の価値が再認識された。そして、暮らしの隅々を探検した際には、地縁の価値が再認識された。そして、暮らしの隅々を探検した際には、地縁の価値が再認識された。

暮らしを支える都市機能

- 多様な働き方を支える情報環境
- スポーツ観戦が可能なアリーナ
- 西海市街地への高いアクセス性

県内から転居した比嘉さん一家

県内から移住した。子どもを産む機に、地縁が豊かで教育環境も整っている街に転居を決めた。最初は少し遠くだったが、地縁を活かして地縁の価値が再認識された。そして、暮らしの隅々を探検した際には、地縁の価値が再認識された。そして、暮らしの隅々を探検した際には、地縁の価値が再認識された。

暮らしを支える都市機能

- 良好な教育環境
- 子育て世代が利用できる緑豊かな公園
- 周辺街地への高いアクセス性

（おしん） | 普天間飛行場跡地「ターミナル」のイメージ | 国土交通省 | <http://www.gnt.go.jp/press/p11000017>

⑪パネル「新しい沖縄のライフスタイルを支える機能」

新しい沖縄のライフスタイルを支える機能

居住環境

- ・エコ技術を駆使した住宅
- ・伝統的な沖縄古民家
- ・新近・高級マンション
- ・介護サービス付マンション
- ・買い物や食事ができる場

教育環境

- ・良好で水準の高い教育環境
- ・保育施設
- ・多様な国際教育・環境教育

就業環境

- ・グローバルな研究施設
- ・全国展開する企業
- ・外資系企業
- ・情報通信基盤充実

交通環境

- ・公共交通優先
- ・エコカー利用
- ・自動運転によるコミュニティバス

医療・福祉環境

- ・高齢者や外国人が安心して暮らせる医療福祉の充実
- ・IoTによる健康監視

アクティビティ

- ・市民センターでサークル活動
- ・アリーナでスポーツ観戦
- ・広場で青空マーケット
- ・大規模引き等の伝統行事

緑による地域ブランディング

- ・緑豊かな公園
- ・緑に囲まれたカフェ
- ・園射しを通る豊かな緑
- ・学校やオフィスからの緑豊かな眺め
- ・ジョギングコース・歴史を感じる散歩道

スマートシティを支える都市基盤

- ・地域エネルギーマネジメント
- ・豊富な地下水の保全・活用
- ・高度な情報通信インフラ
- ・防災・減災
- ・都県空港にアクセスが便利な道路
- ・新たな公共交通の軸となる鉄軌道

（※詳しくは「普天間飛行場のまちづくり」をご覧ください。 <http://www.gaitokubunka.jp/itdm/01.html>）

⑫パネル「普天間飛行場一体のむかしの風景」

普天間飛行場一帯のむかしの風景

The Ancient Scenery Around The Futenma Air Station
(Minowa Settlement & Kamiyama Settlement)

このあたりを
模型にしました

模型は現在「宮野原市立博物館」に展示されています。

普天間飛行場がある地域は、かつて人々が自然と共に暮らしていました。
傾斜や風の通り道を活かした家々、集落の要所にある湧き水、人々が集まる市場や祭の広場、平らに広がる農地。
むかしの人たちの暮らしの知恵を学び、跡地につくる新しいまちに活かすために模型を作りました。